

特定非営利活動法人ひとまちあーと

2020年度 事業報告書

(自)2020年4月1日 ~ (至)2021年3月31日

ひとまちあーとは、百年、千年の時空を超えて昔と未来をつなぐまちづくりを目指します。

わたしたちが目指すのは、先人たちの知恵や努力によってつくり育てられてきた歴史的景観・文化・風習を破壊するような開発型のまちづくりではなく、それらの価値を見直し、暮らしの中に活かすことで、より質の高い生活環境を整える持続型のまちづくりです。

百年前の先人たちに喜んでもらえるか、百年後の担い手に喜んでもらえるか、という視点を大切にすることで、現代に生きるわたしたちが“より豊かな人生”を実践し、未来へ繋げていくことを目指します。





03 ご挨拶

コトづくり事業

- 05 活動報告 01
- 06 活動報告 02
- 07 活動報告 03
- 08 活動報告 04
- 09-10 活動報告 05
- 11 活動報告 06

未来づくり事業

- 13-14 活動報告 01
- 15-16 活動報告 02

平素は当法人の運営に多大なるご支援・ご協力、誠にありがとうございます。お蔭様で2020年度を終えることが出来ました。変化と危機管理に追われる1年でした。結果的には、事務所の拡充や各拠点の機能の再配置を行うきっかけとなり、法人としての立ち位置や、グループ会社との関係性などを見直す機会を頂きました。「なんのために」、「だれのために」、実務職員で何度となく自問自答し、改めて法人理念がなんなのかを問い直しました。

ひとまちあーとは、2007年に法人設立。2014年に代表理事を交代しました。気が付けば「龍野藝術工房伊勢屋」の運営を中心とした前代表による7年間と同じ年月が過ぎたこととなります。代表交代から必死で走り続けた7年間ではありましたが、振り返れば第二創業ともいえるほどの業態転換と、グループ会社の拡充によって、グループ全体の収益基盤が強化されつつあります。中でも、市民出資会社・緑葉社がグループに加わり、空き家活用領域に主体的に踏み込んでいけたことは、成長の大きな原動力であったことは間違いありません。

また、龍野・播磨を取り巻く社会環境の変化、世代交代の波も追い風となり、地域団体や、イベント事務局の再編が起きて、当法人の地域社会での位置づけも大きく変わりつつあります。地域のプレイヤーから、プレイヤー組織をネットワーク化しバックアップする組織への変革。徐々にその方向性は加速しています。一方で、原点回帰とも言える現象も起きつつあります。それは「芸術文化」という要素です。伊勢屋を閉館して以降、芸術文化から縁遠くあった当法人ですが、小田洋介さんとの出会いによって止まっていた時計が再び動き出しました。奇しくも、基盤を整える7年間を終え、新たなチャレンジを始めるこのタイミングでの出来事です。コロナ禍という未曾有の危機がきっかけと言えるかもしれません。コロナ禍を言い訳にするのではなく、コロナ禍をきっかけに新たな工夫とチャレンジができる組織であり続けたいと思います。

引き続きの、温かい支援と厳しい指導をお願いして代表挨拶に代えさせていただきます。

特定非営利活動法人ひとまちあーと
代表理事 畑本康介

[コトづくり事業]

播磨の文化・風習を学び継承する

活動報告

01

ムカシミライ学校

【目的】

先人たちの知恵や努力を知り、まちづくりに活かす。

【補助金・助成金】

なし

【委託金・協賛金】

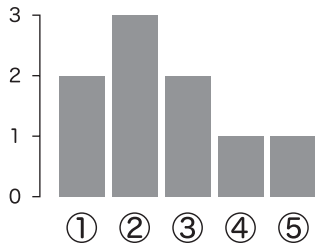
なし

【内容】

龍野城下町で長年暮らしている住民や店舗オーナーさんに、龍野での思い出を話してもらい動画に収める活動。今年度は、1月にギャラリーアーツ&ティーで井上美佳さんに“龍野アートプロジェクト”や“オータムフェスティバルin龍野”開催の秘話を語ってもらった。コロナ禍の影響で活動は少なかったが今年度の取組の中での気づきは、思い出の残る建物の中で自発的にストーリーを語ってもらう事で、より具体的で気持ちのこもった内容を聞いたことだった。これをうけ次年度からは、訪問・イベント形式の記録活動だけでなく緑葉社の住民向け物件内覧会で来場者に話を聞くなどして情報収集の場を広げ、記録と学びの活動を行っていく。

【得られた効果】

スタッフの学びとして龍野城下町の歴史・文化・暮らしについて理解を深めた。



活動報告

02

川原町まちや案内所「あがりがまち」

【目的】

龍野の歴史的景観・文化・風習を尊重し、その価値を伝播していく。

【補助金・助成金】

たつの観光プロモーション事業の一部 / 出元:たつの市観光振興課

【委託金・協賛金】

なし

【内容】

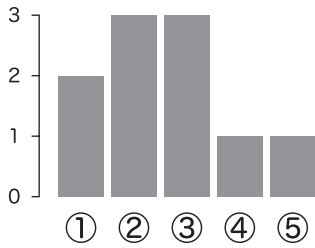
緊急事態宣言の為、4月～6月まで休業、7月から運営を再開した。まちづくり協議会の「龍野七夕まつり」や龍野川西商店会の「コロナに負けるな提灯」の設置、同商店会主催の「龍野川西絵葉書コンテスト」の運営事務局として、作品管理や展覧会を行うなど、地域連携や交流を重ねた。株式会社masumasuが運営する「古民家ホテル群kurasu」の受付フロントとして、オープンで来所しやすい快適な空間にする為、9月中旬から土間を拡げベンチなどを設置する改装工事を行い11月に運営再開した。これにより観光客や住民の滞留時間が増えている。「龍野らしさの追求と発信」という株式会社masumasuの事業方針とあがりがまちのコンセプトが合致していることや、ホテルのフロント業務と案内所としての業務の親和性が高いことから連携して運営している。

(来場者:延べ 1,529名 / 運営時間:毎週水~日 10時~16時)

※店舗スタッフは、案内所業務とホテルフロント業務を兼任

【得られた効果】

これまで日帰りの方がメインだった案内所に、新たに宿泊客が加わることで多種多様な来訪者への対応力が向上し、より丁寧で細やかな情報提供を心掛けがけるようになった。



03

ふるさと事業

【目的】

百年前の先人と百年後の担い手に喜んでもらうための“まちづくりの同志”を増やす。

【補助金・助成金】 ※ 今年度はコロナ支援金等を申請

■ 兵庫県・市町協調による休業要請事業者経営継続支援金 / 100万円 / 出元: 兵庫県経営継続支援金事務局

■ がんばるお店応援補助金 / 10万円 / 出元: 兵庫県中小企業団体中央会

■ 緊急事態宣言協力金 / 138万円 / 出元: 兵庫県時短協力金事務局

【委託金・協賛金】

なし

【内容】

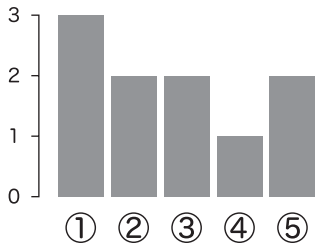
今年度は、4月～6月・1月～2月の緊急事態宣言発令中に、時短営業・休業要請により売り上げが大幅に減少した。また、新人店舗スタッフを遠隔でバックアップするマネージャーやアドバイザーのサポート体制が整わなかった。事業内容としては、昨年度末から加わった新人スタッフの案で、コロナ禍の集客の為、コロナ関連の支援金を活用し、大型モニターを設置してオンラインでお客様とのコミュニケーションを継続・拡大していく取組を始めた。月1回の「ビブリオバトル」(※本の紹介をし投票で1位を決める書評会)や宣言期間中のオンラインバーでの様子をSNSで積極的に発信した。また各種地域団体と連携して企画を実施したり、担当スタッフの繋がりでも市外の来訪者が訪れたり、城下町を訪れる人々をつなぐ場としての取組を活発に行った。このように、コロナ禍にも関わらず例年より多種多様なお客様が訪れ、SNSでの交流も盛んに行われたのは一つの大きな成果だった。※感染対策に関しては、客席やカウンターにシールドを設置したり中庭の屋外スペースを活用したりと換気を良くして営業した。

【実施イベント一覧】

- ・Goodstockとのコラボ企画 2日間開催
- ・オンラインバーふるさと 28回開催
- ・龍野アートプロジェクトとのコラボ企画 2回開催
- ・播磨オレンジパートナーとのコラボ企画 2回開催
- ・彫金ワークショップ 2回開催
- ・弾き語りライブ 1回開催
- ・ゲストマスター 8回開催 (農家Bar 6回、おやびんナイト2回)
- ・ビブリオバトル 9回開催

【得られた効果】

オンラインバーの効果で城下町住民の「ふるさと」ファンが増え、「龍野」や「ふるさと」を発信・拡散してくれている。また、移住者である担当スタッフが、店舗業務やイベント開催等を通じて、城下町コミュニティに馴染んでいった。



活動報告

04

観光プロモーション事業

【目的】

たつの市の歴史的景観・文化・風習の価値の理解者を増やし、これらの活動に地域の人々が積極的に携わる環境作りをする。

【補助金・助成金】

たつの観光プロモーション事業 / 300万円 / 出元:たつの市観光振興課

【委託金・協賛金】

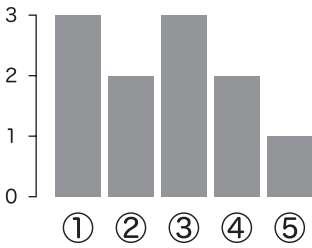
なし

【内容】

たつの市の補助事業として、甲冑・時代装束着付、着物着付、弓体験、寺ヨガなどの体験メニューの企画・運営を行った。川原町まちや案内所「あがりがまち」を受付窓口とし、龍野城や城下町のお寺などで各体験を実施。今年度はコロナ禍の影響でイベント集客が伸び悩むことが見込まれたので、講師へのインタビュー記事をSNSに投稿したり体験の様子を動画配信するなど情報発信に注力した。また、7月4日～7日に実施した「城下町行灯かざり」では、コロナ禍の影響で龍野地区のイベントが中止になったことをきっかけに、「コロナに負けるな」をコンセプトに龍野小学校や同小学校区子ども会などのこれまで関りの無かった組織と連携し、七夕に合わせて行燈を町中に飾るという企画を立案。さらに、まちづくり協議会の恒例行事である「七夕祭り」と同時開催した。最終的に城下町の5組織が連携したイベントとなった。

【得られた効果】

今年度より本格実施した弓体験は、当日参加で気軽に楽しめる体験コンテンツとなり、龍野城に来訪した方の満足度が向上している。また、「城下町行灯かざり」では、地域の多種多様な団体・組織が連携したことで、これまでになかった地域の子ども達を巻き込んだ企画が実施できた。地域連携の幅が広がった。



05

その他

▶自然と町並みを活かした、たつの周遊促進事業

【目的】

たつの市民のシビックプライドを育みSNS等で情報発信を行うことと、スタッフの事業企画・運営トレーニング

【補助金・助成金】

地域づくり活動応援事業助成金 / 40万円

出元:西播磨県民局 県民交流室

【委託金・協賛金】

なし

【内容】

コロナ禍に対応した市内の観光スタイルとして、たつの市内を車で巡る「フォトラリー」を開催。魅力的なたつの市内の風景写真を撮影し「#たつのの魅力」を付けて市民にSNS投稿してもらおう。投稿を「川原町まちや案内所あがりがまち」で見せると、「たつのキモチ券」(市内の協力宿泊施設で使用できる商品券)を贈呈。SNSの定期投稿やチラシ・ポスターの設置や西播磨全域に新聞折込をしてキャンペーンを周知。3か月のキャンペーン期間中で470件の投稿があった。スタッフの事業企画・運営トレーニングとして、企画～運営～報告まで一貫して担当させた。

【得られた効果】

事業終了後も、多くのSNS利用者が継続して「#たつの魅力」を使って発信したり地元紹介を頻繁にするなど、事業実施前に比べてたつの市民が積極的に地元発信を行うようになった。キャンペーン呼びかけに使用していたSNSページは現在もフォロワーが増えており、「たつの」の情報拡散が継続されている。この流れを止めず、今後も継続し運用していく。



05

その他

▶株式会社やまとオンライン配信企画

今年度8月、龍野に事務所を構えた「芸能集団 鼓童」出身・小田洋介さんからの紹介で、「きものやまと」主催の「10分間の小さな幸福」というオンライン動画配信企画（※コロナ禍でもやまとの会員の皆さんに“小さな幸せを届ける”という企画。「やまと」のHPから誰でも動画の視聴が可能）が11月1日、龍野で実施された。末廣醤油工場内の和太鼓演奏とオンライン配信のコーディネートを一とまちあーとが担当。この事をきっかけに3月には揖保小学校で児童向け特別公演や小田洋介さん代表のTEAM EN全国和太鼓演奏ツアー「紡」のたつの公演を実施することに発展した。
「10分間の小さな幸福」→<https://www.youtube.com/watch?v=bt-2vivQMmbk>

▶龍野川西商店会運営サポート

「龍野川西絵葉書コンテスト」の委託運営や総会を始めとする各種会議の資料作成のほかに、今年度はコロナ対策で、相撲の神様である”野見宿禰”をキャラクター化し感染症対策済み店舗の印として「コロナに負けるな提灯」と感染症対策を促すポスター兼マップの制作も引き受けた。また、商店会メンバーと共にたつの市主催の「龍野地区まちづくりビジョンワークショップ」にも定期的に参加した。

▶「tatsuno.life」HPの制作

4月に発令された緊急事態宣言を受け、たつの住民にステイホームを呼び掛ける活動を専用HPを制作し行った。「Stay home, Save tatsuno」のロゴマークを自由に使えるスタンプとして制作し、ステイホームのキャンペーンを行った。将来的には、龍野レトロマップのオンライン版や地域イベント情報の掲載など活用の仕方を検討中。
【制作したHP】 <http://tatsuno.life/>

▶わたしのマチオモイ帖

全国のクリエイターが自分にとって大切な町を小冊子にして紹介する展示会活動「わたしのマチオモイ帖」に、“龍野”の広報活動として出品。地域の鞆作家に表紙の素材を提供してもらった。龍野出身の数々の文化人が残した詩や歌詞を内容に織り込み、文学に造詣の深い龍野を色彩豊かに表現。11月13日～23日の間の7日間大阪会場で展示した。



06

Toilinks運営

【目的】

法人内のコミュニケーション円滑化と事業効率の向上

【補助金・助成金】 ※コロナ補助金で事務所を整備

小規模事業者持続化補助金コロナ特別対応型 / 142万円 /
出元：日本商工会議所

【委託金・協賛金】

なし

【内容】

元々チャレンジショップなどの事業スタートアップ支援の場所として運用していたが、今年度からひとまちあーとの法人事務所としてスタッフが常駐し、グループ会社へのオフィス貸しや一般向けの住所・オフィス貸しなどの運用をしている。またコロナ禍の子連れ出勤にも対応したキッズスペースやオンライン会議用の設備を整備した。

【得られた効果】

スタッフのコミュニケーションが増え、業務効率が向上した。また他グループ組織のミーティング場所として活用しており、組織間のコミュニケーションも増えている。



[未来づくり事業]

連携とサポートで未来の播磨へ繋げる

活動報告

01

西播磨ビズトープ事業

【目的】

遊休資源を活用し播磨各地の多様な暮らしに寄り添った次世代のビジネスが育ちやすい総合的な環境作りを目指す。大学や金融機関などと連携し、播磨各地でまちづくり会社と事業会社の立ち上げのサポートを行いネットワーク化していく。

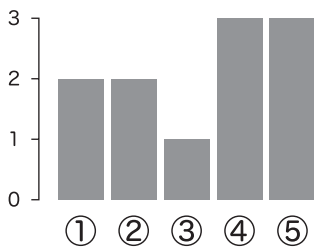
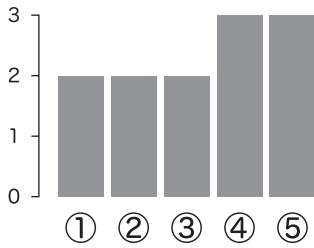
【補助金・助成金】

ボランティア基金助成金 / 100万円

出元：兵庫県社会福祉協議会ひょうごボランティアプラザ

【委託金・協賛金】 委託料 / 出元：各グループ会社

兵庫県立大学事業委託 / 36万円 / 出元：兵庫県立大学



▶アップサイクルプロジェクト

【目的】

空き家改修で出る古材や残置物を、歴史的背景を尊重しながら新しいカタチで活用し、価値を継承していく。

【補助金・助成金】

大学との連携による地域創生活動支援事業 / 補助金25万円

出元：西播磨県民局県民交流室地域づくり課

【委託金・協賛金】

委託料 / 出元：NPO法人Goodstock

【内容】

「城下町ベンチプロジェクト」としてNPO法人Goodstockが主体で、播磨の家具職人と連携し空き家から出た古材を用いてベンチを制作、龍野川西商店会が購入して城下町内に計10基設置・管理する仕組みをひとまちあーとがプロデュース。観光客や住民に利用される“龍野の町歩きを楽しむアイテム”を組織連携で作ることができた。

また大学連携の事業として、兵庫県立大学生と龍野住民と市内の家具職人と連携して、「アップサイクル本棚」の制作に取り組んだ。オンラインでデザイン設計のアイデア出しを家具工房での制作を家具職人監修のもと行った。また「城下町ベンチプロジェクト」を含むこれらのアップサイクル活動の様子をサイトページで公開し、活動の周知を行った。

【得られた効果】

地域の家具職人をはじめ20代～40代の若い世代の参加が多く、アップサイクルプロジェクトに共感してくれた。今後の活動においての仲間の拡がりが見えた。



活動報告

01

西播磨ビズトープ事業

▶デザイン事業

【目的】

地域の風土風習を継承し、過去から未来へとつなぐ町づくりに繋がるようなプロデュースデザインを行う。

【補助金・助成金】

なし

【委託金・協賛金】

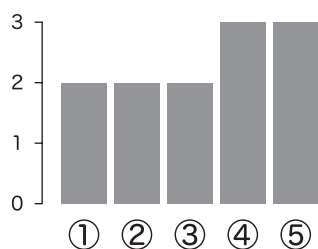
なし

【内容】

城下町内外の店舗装飾や販促物のデザインを多く受けた。特に川原町の三軒長屋の複合店舗の看板統一のデザインは、他店舗への宣伝効果を生み、新たな店舗の受注に繋がっている。年度中期にデザイン業務と他事業にかかる時間配分や価格設定の見直しを行い、本事業の収支管理体制を整えた。他事業の負担になり過ぎないように、バランスを取りながら、今年度は33件の仕事を受注した。

【得られた効果】

他事業では繋がる機会のなかった店舗との信頼関係が生まれたり、すでに繋がりのある店舗との関係性を育めた。また「龍野らしい」デザインが町に増え、スタッフの喜びに繋がっている。



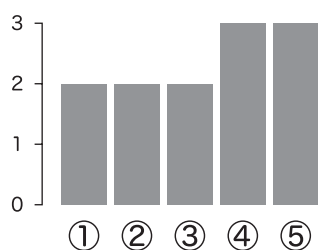
▶たつのアートシーン

【目的】

芸術文化に造詣の深い町になることを目指し、未来の“郷土を想う人材”を育む。

【内容】

本格的な活動は次年度からだが2021年度に向け、内部打合せや助成金申請を行うなど準備の年だった。これまで各団体が積み上げてきた実績を引継ぎ、新たに「たつのアートシーン」として、これまでのノウハウやネットワークを活かして事業を進めていく。



活動報告

02

イベント各種事業受託

▶TEAM ENとの共催事業

【目的】

芸術文化に造詣の深い町になることを目指し、未来の“郷土を想う人材”を育む。

【補助金・助成金】

なし

【委託金・協賛金】

地域企業の協賛金

【実施日】

揖保小学校演奏会:2021年3月10日

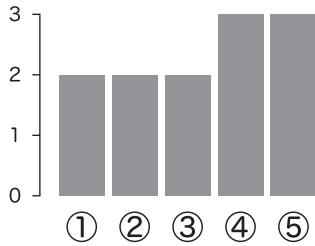
「紡」たつの特別公演:2021年3月27日

【内容】

次年度のたつのアートシーン2021に向けた実験的な取組として、「芸能集団 鼓童」出身・小田洋介さんの全国和太鼓演奏ツアー「紡」たつの公演を、地域企業の協賛を募り実施した。龍野出身で歌手の多田周子さんとの共演をプロデュースしたり広報物の制作を担当した。また、子供たちにプロの和太鼓演奏に触れてもらうため、揖保小学校と協力し特別公演を企画・実施した。※小田洋介・・・芸能集団鼓童出身の和太鼓奏者。現在は独立しTEAM ENの代表で舞台芸術家として活躍中。本年度8月に龍野城下町に同社の事務所兼研修所を構え、今後もひとまちあーと連携し事業展開予定。

【得られた効果】

企業協賛を募りアート事業を実施する事ができ、次年度のたつのアートシーンの仕組みの方向性が見えた。



<レベル1、2、3段階> ① 地域の風土風習を活かしたまちづくりを実践する事業 ② 地域の誇りを大切に暮らし方を普及啓発する事業 ③ 播磨国のローカルアイデンティティを発信する事業 ④ 遊休資本を活用した企画をプロデュースする事業 ⑤ 新たな価値を創造するための社会関係資本づくり事業

活動報告

02

イベント各種事業受託

▶婚活イベント事業受託

【目的】

“豊かな人生”を実践するための選択肢のひとつとして、“結婚”や“子育て”の良さを独身者に向け啓発し、結婚の定住の促進につなげる。

【補助金・助成金】

なし

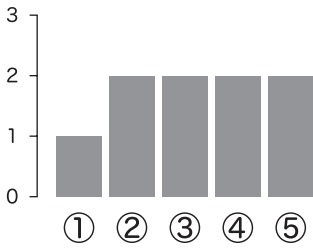
【委託金・協賛金】

各所からの事業委託金

- 結婚っていいなキャンペーン事業 / 198万円
出元：西播磨県民局県民交流室県民活動支援課
- お見合い列車、はじめりは姫新線 / 62万円
出元：西播磨県民局総務企画室総務防災課
- 婚活力アップセミナー、専門職向けイベント / 100万円
出元：公益財団法人兵庫青少年本部ひょうご出会いサポートセンター

【内容】

「結婚っていいなキャンペーン事業」「お見合い列車、はじめりは姫新線。」「婚活力アップセミナー、専門職向けイベント」等のイベントのプロデュース及び実施運営、婚活情報冊子の発行やSNSでの情報発信を行った。今年度は計6回の婚活イベントを実施。コロナ禍に対応したオンライン参加型や少人数制の町歩きイベントを企画・提案し、実施した。





ひとまち あーと